

令和7年度 大阪市立矢田西中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	31	50	36	6.0	15.3
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
	理科
学校	471
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	34	54.3	40.3	45.1	38.2	42.2	11.3	8.4	16.1	14.9	10.3
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	48.2	54.4	6.1	5.8	11.1	8.6	6.5
	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	48.1	53.2	6.8	6.5	12.1	10.0	7.4

※ 3年生の理科はA問題を選択

令和7年度 大阪市立矢田西中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○中学生チャレンジテスト(3年生)

<成果>

国語では学習指導要領のすべての領域等で得点率は下回ったが「情報の扱い方に関する事項」の領域の得点率が44.3%で、大阪府との得点率と比較して他の領域等より僅差の結果となった。

社会では問題形式の「記述式」ではの領域の得点率が14.0%で健闘した結果となった。

数学では学習指導要領の領域等の「数と式」の領域の得点率が51.5%で、大阪府と比較して他の領域等より僅差の得点率となった。

理科では学習指導要領の領域等の「命」の領域の得点率が51.8%で、大阪府と比較して他の領域等より僅差の得点率となった。

英語では学習指導要領の領域等の「読むこと」の領域の得点率が43.8%で、健闘した結果となった。

<課題>

すべての教科において大阪府平均、大阪市平均ともに下回った。

無回答平均率においても、すべての教科で上回る結果となった。

【今後に向けて】

引き続き、習熟度別少人数指導やチームティーチングを国語・数学・英語のすべての授業で実施し、引き続き、きめ細やかな指導を行っていく。また、各教科でICTを積極的に活用した「個別最適な学習」を進めるとともに、「協働的」「主体的・対話的で深い学び」のある授業を進めるとともに、教科を横断した「総合的読解力」の育成のための取り組みを進め、苦手の克服、基礎的な知識の定着につながる指導に努めていく。